

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-37	高等学校	国語	古典B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	古B 330	精選古典B 新版		

1.編修の基本方針

①古典を読む資質・能力を高め、伝統的な言語文化への理解と関心を深める。

- 古文編・漢文編それぞれをⅠ部・Ⅱ部の2部構成にし、時代やジャンルのバランスに配慮して教材を配置することで、古典を読む能力を段階的に養うことができるようにしました。
- 単元扉を設け、その単元での学習目標を明示しました。また、各教材の「学習の手引き」「語句と表現」においては、学習が効果的に行えるようなポイントを示しました。
- 古文編には「言語活動」を4か所設け、その活動と教材本文との関連を図ることで、古典や言語文化についての理解と関心を深めることができるようにしました。
- 古文編Ⅰ部の末尾に、古典に関する評論文「和歌というメディア」を採録し、古典における和歌の位置付けや意義、および外国の詩との相違点について知ることで、伝統的な言語文化についての理解と関心を深めることができるようにしました。
- 古文編Ⅰ部の末尾に「古典芸能への誘い」を採録し、伝統文化に親しむことができるようにしました。

②主体的に学ぶ態度を養い、思考力を伸ばすとともに、豊かな感性を育む。

- 古文編には、4か所の「言語活動」に加え、Ⅱ部第10単元「古典の注釈」を設け、古典が読み継がれてきた伝統や、古典を解釈するという文化について考えを深め、主体的に学び考える態度を養うことができるよう工夫しました。
- 「学習の手引き」「語句と表現」においても、読解力や思考力を養ったり、古人の豊かな感性について考えたりすることができるような設問を示しました。

③教材本文とコラム・附録等を有機的に関連させ、多様な学習に対応できるようにする。

- 古文編では「参考」を3か所、漢文編では9か所設け、単元や教材で学習した内容に関連する資料を示し、古典の文章相互の関連について考えたり、日本における漢文の受容について考えたりすることができるようにしました。
- コラムとして古文編では「古文の窓」(7か所)、漢文編では「漢文の窓」(5か所)を設け、単元や教材で学習した内容を深めたり広げたりできるようにしました。
- 附録として、古文編では各種文法資料を充実させるとともに「古文重要語句索引」「日本古典文学史年表」を、漢文編では「漢文句法・重要語のまとめ」「中国文学史年表」を用意し、多様な学習に対応できるようにしました。
- 口絵には、古典の世界についての理解を深める資料を豊富に用意しました。

2.対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	
古文編 I部	1 説話1	・知識と教養に基づいた古人のあり方を描いた教材を用意しました。(第1号) ・立場を超えてお互いを思いやる人間のあり方を描いた教材を用意しました。(第3号)	→12～13ページ →16～18ページ
	2 物語1	・他者への敬愛について考えることができる教材を用意しました。(第3号)	→26～28ページ
	3 随筆1	・自然の美しさを描いた教材を用意しました。(第4号)	→30～31ページ
	4 軍記物語	・他者への思いやりについて考えることができる教材を用意しました。(第3号)	→40～43ページ
	5 随筆2	・普遍的真理について述べた教材を用意しました。(第1号)	→59～61ページ
	6 日記1	・個人の価値観の違いについて考えることができるコラムを用意しました。(第2号)	→76ページ
	7 物語2	・能力を発揮し、自律の精神を持つ人間の生き方について触れることができる教材を用意しました。(第2号)	→86～95ページ
	8 詩歌	・自然の美しさや生命の尊さを表現した教材を用意しました。(第4号)	→108～116ページ
	9 近世の文章1	・他者への思いやりを育んでいく人間のあり方に触れることができる教材を用意しました。(第3号)	→120～124ページ
	古文へのまなざし	・英語の詩との比較を通して、伝統的な言語文化への理解を深めることができる教材を用意しました。(第5号)	→126～130ページ
古典芸能への誘い	・さまざまな古典芸能の魅力が味わえるページを用意しました。(第5号)	→131～134ページ	
古文編 II部	1 説話2	・日本と中国の逸話の類似性について取り上げた教材を用意しました。(第5号) ・自律の精神や他者への敬愛について考えることができる教材を用意しました。(第2号)(第3号)	→136～138ページ →139～141ページ, 142～144ページ
	2 日記2	・冷静に自己を見つめる姿勢を育むことができる教材を用意しました。(第1号) ・古文相互の影響関係について理解を深めることができる教材を用意しました。(第5号)	→146～149ページ →155～157ページ
	3 物語3	・相手を思いやる心や人間の生き方について考えることができる教材を用意しました。(第3号)	→160～174ページ
	4 評論1	・古文の世界における和歌の位置付けや、和歌に対する古人の思いについて知ることができる教材を用意しました。(第1号)(第5号)	→176ページ, 179～ 180ページ, 181～ 182ページ, 183～ 184ページ
	5 物語4	・古文の世界の多様性について触れることができる教材を用意しました。(第5号)	→186～188ページ, 189～192ページ, 193～196ページ

	6 評論2	<ul style="list-style-type: none"> ・著名な古典作品やその作者像について、多面的に考察することができる教材を用意しました。(第1号) ・年齢に応じた身体の使い方について論じた教材を用意しました。(第1号) ・古文を読むということについてのより深い理解に資するコラムを用意しました。(第5号) 	→198～201ページ, 202～204ページ →205～207ページ →208ページ		
	7 俳諧	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の景観と人間の営みについて描いた教材を用意しました。(第4号) 	→210～212ページ, 213～214ページ		
	8 近世の文章2	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人への愛情など、人間の営みについて考えることができる教材を用意しました。(第3号) 	→222～229ページ		
	9 上代の文学	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な言語文化の理解に資する教材を用意しました。(第5号) 	→232～236ページ		
	10 古典の注釈	<ul style="list-style-type: none"> ・古典がどのように受け継がれてきたのかを知り、古典に対する理解を深めるとともに、主体的に考える態度を養うことができる教材を用意しました。(第1号)(第5号) 	→238～242ページ		
	漢文編 I部	1 小話	<ul style="list-style-type: none"> ・職務と責任について学ぶことができる教材を用意しました。(第2号) 	→248～249ページ	
		2 詩1	<ul style="list-style-type: none"> ・名勝や季節の美しさを通じて自然への畏敬の念を学ぶことができる詩を用意しました。(第4号) ・友人との別れを惜しむ心情を通じて友情の大切さを学ぶことができる詩を用意しました。(第3号) ・日本人の作った漢詩を用意し、中国との関わりについて学習できるようにしました。(第5号) 	→254～257ページ, 259ページ →258ページ →261～262ページ	
			3 史記1	<ul style="list-style-type: none"> ・古代中国の英雄である二人の生き方を通じて、それぞれの人生観にふれることができる教材を用意しました。(第2号) 	→264～278ページ
			4 思想1	<ul style="list-style-type: none"> ・儒家と道家の思想について代表的な文章を取り上げ、幅広い知識と教養を身につけることができる教材を用意しました。(第1号) ・孔子、孟子の文章に対しての日本の儒学者の解釈を載せ、日本と中国の関わりについて考えることができる教材を用意しました。(第5号) 	→280～289ページ →281ページ
		5 小説1		<ul style="list-style-type: none"> ・中国の小説の特徴を知ることができる教材を用意しました。(第1号) 	→292～298ページ
6 詩2		<ul style="list-style-type: none"> ・国や時代を隔てた普遍的な家族に対する情愛について考えることができる教材を用意しました。(第3号) 	→300ページ		
7 文1		<ul style="list-style-type: none"> ・正義や責任、社会といかに関わるべきかについて考えることができる教材を用意しました。(第3号) 	→306～309ページ		
漢文編 II部	1 史話	<ul style="list-style-type: none"> ・職務と責任について学習できる教材を用意しました。(第2号) 	→318～321ページ		
	2 詩3	<ul style="list-style-type: none"> ・名勝や自然物の美しさを通じて自然への畏敬の念を学ぶことができる詩を用意しました。(第4号) ・離れ離れの家族を思う心情を描いた詩を用意しました。(第3号) 	→324～326ページ, 330～331ページ →329ページ		
		3 史記2	<ul style="list-style-type: none"> ・職業と人生について考える教材を用意しました。(第2号) 	→342～351ページ	
	4 白楽天と日本文学	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩が日本文学にどのように影響を与えたかを学べる教材を用意しました。(第5号) 	→354～362ページ		

5 小説2	・理想的な社会のあり方や、他者に対する愛情について考えることができる教材を用意しました。(第3号)	→364～372ページ
6 思想2	・諸子百家の思想について代表的な文章を取り上げ、幅広い知識と教養を身につけることができる教材を用意しました。(第1号)	→374～384ページ
7 文2	・唐宋八大家について代表的な文章を取り上げ、幅広い知識と教養を身につけることができる教材を用意しました。(第1号)	→386～392ページ

3.上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 4か所の「言語活動」、各教材の「学習の手引き」、および古文編Ⅱ部第10単元「古典の注釈」において、調査報告・比べ読み・話し合い・課題探究などの活動を取り上げました。(学校教育法第51条3号)
- 適宜「参考」を設け、教材に関係する文章を紹介することで、古典として読み継がれる文章相互の関連や日本における中国文化の受容について理解を深めるとともに、日常的に古典の文章を読み広げる態度を養うようにしました。(学校教育法第51条2号)

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-37	高等学校	国語	古典B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
2 東書	古B 330	精選古典B 新版		

1.編修上特に意を用いた点や特色

①**目標**…古典を読む能力を養い、古典についての理解や関心を深め、人生を豊かにするため、「内容」に示された事項の学習が効率的・有機的に行えるようにしました。

②内容

(1)

ア：各教材末に「語句と表現」を設け、教材中の文法事項や句法、表現の特徴などが確認できるようにしました。

イ：各教材末に「学習の手引き」を設け、文章構成や展開、内容に関する設問を示しました。

ウ：古文編では随筆単元・日記単元・評論単元を、漢文編では思想単元・文単元を、質量ともに充実させ、古人のものの見方や感じ方、考え方に触れ、自己の考えを豊かにすることができるようにしました。

エ：古文編では上代から近世まで幅広い時代・ジャンルの教材を採録し、漢文編では散文、韻文ともに多様な形式の教材を用意し、それぞれの作品の特色や価値について考えることができるようにしました。

オ：古文編と漢文編との相互の関連を図り、我が国の文化と中国の文化との関係が理解できるようにしました。また古文編では和歌と英語の詩との比較を取り上げた評論文「和歌というメディア」や、古典がどう読み継がれてきたかについて考える「『小倉百人一首』の注釈を読む」を採録し、広い視野で我が国の文化について考えることができるようにしました。漢文編では日本漢詩など日本漢文も採録しました。

(2)

ア～エ：古文編では「言語活動1～4」を設け、それぞれ課題を一つに絞ることで、そこで行う言語活動の目的と意義を明確にし、能動的な活動ができるようにしました。

③**内容の取扱い**…「古典B」の「4 内容の取扱い」および「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」の「2 内容の取扱いについての事項」に示された事項に配慮し、教材を選定しました。古典についての評論文としては、和歌と英語の詩との比較などから日本文化について考察する「和歌というメディア」を採録しました。

2.対照表

単元	教材名	(1)指導事項との対応					(2)言語活動例との対応				頁
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	
古文編 I 部											
1 説話 1	宇治拾遺物語	○	○	○	○						12
	古今著聞集	○	○	○	○						14
	唐物語	○	○	○	○	○					16
2 物語 1	伊勢物語	○	○	○	○						20
	大和物語	○	○	○	○						26
3 随筆 1	枕草子	○	○	○	○	○					30
	■古文の窓1 平安時代の后妃と女房一定子と清少納言			○	○	○					38
4 軍記物語	平家物語	○	○	○	○						40
	■古文の窓2 『平家物語』と『建礼門院右京大夫集』が描く平家			○	○						50
5 随筆 2	方丈記	○	○	○	○						52
	〔言語〕1 「すさまじい」と「すさまじ」	○				○	○				55
	徒然草	○	○	○	○						56
	玉勝間	○	○	○	○						64
	〔言語〕2			○				○			66
6 日記 1	更級日記	○	○	○	○						68
	蜻蛉日記	○	○	○	○						72
	■古文の窓3 結婚生活一語る伯母, 語らぬ姪			○	○	○					76
7 物語 2	大鏡	○	○	○	○	○					78
	〔言語〕3 道真伝説を調べる			○		○				○	96
	源氏物語(一)	○	○	○	○						98
8 詩歌	万葉秀歌	○		○	○						108
	王朝秀歌	○		○	○						112
	歌謡	○		○	○						117
9 近世の文章 1	世間胸算用	○	○	○	○						120
	■古文の窓4 江戸時代の貨幣					○					125
古文への まなざし	和歌というメディア			○	○	○					126
	古典芸能への誘い			○	○	○					131

単元	教材名	(1)指導事項との対応					(2)言語活動例との対応				頁
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	
古文編 Ⅱ部											
1 説話2	十訓抄	○	○	○	○	○					136
	宇治拾遺物語	○	○	○	○						139
	発心集	○	○	○	○						142
2 日記2	紫式部日記	○	○	○	○						146
	[言語]4			○				○			147
	和泉式部日記	○	○	○	○						150
	十六夜日記	○	○	○	○						155
	■古文の窓5 『十六夜日記』と旅			○		○					158
3 物語3	源氏物語(二)	○	○	○	○						160
4 評論1	古今和歌集仮名序	○	○	○	○						176
	俊頼髓脳	○	○	○	○						179
	無名抄	○	○	○	○						181
	正徹物語	○	○	○	○						183
5 物語4	落窪物語	○	○	○	○						186
	堤中納言物語	○	○	○	○						189
	夜の寝覚	○	○	○	○						193
6 評論2	無名草子	○	○	○	○						198
	源氏物語玉の小櫛	○	○	○	○						202
	風姿花伝	○	○	○	○						205
	■古文の窓6 宣長が試みた古典理解の方法—現代語訳	○				○					208
7 俳諧	芭蕉	○	○	○	○						210
	蕪村	○	○	○	○						213
	去来抄	○	○	○	○						215
	三冊子	○	○	○	○						218
8 近世の文章2	雨月物語	○	○	○	○						222
	■古文の窓7 物語と小説					○					230
9 上代の文学	古事記	○	○	○	○	○					232
10 古典の注釈	『小倉百人一首』の注釈を読む	○	○	○	○	○					238

単元	教材名	(1)指導事項との対応					(2)言語活動例との対応				頁
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	
漢文編 I 部											
1 小話	小話一五編	○	○	○	○						244
2 詩1	近体詩一八首	○	○	○	○	○					254
	日本の漢詩一二首	○	○	○	○	○					261
3 史記1	項羽	○	○	○	○						264
	■漢文の窓1 捲土重来			○	○						275
	劉邦	○	○	○	○						276
4 思想1	儒家と道家	○	○	○	○	○					280
	■漢文の窓2 儒家と道家			○	○						290
5 小説1	小説一三編	○	○	○	○						292
6 詩2	古詩一四首	○	○	○	○						300
7 文1	文一二編	○	○	○	○						306
漢文編 II 部											
1 史話	三国志の世界	○	○	○	○						314
	■漢文の窓3 三国志			○	○	○					322
2 詩3	李白と杜甫	○	○	○	○						324
3 史記2	荊軻伝	○	○	○	○						334
	韓信伝	○	○	○	○						342
	■漢文の窓4 劉邦と漢の三傑			○	○						352
4 白楽天と日本文学	白楽天	○	○		○	○					354
5 小説2	小説一二編	○	○	○	○						364
6 思想2	諸子百家	○	○	○	○						374
	■漢文の窓5 諸子百家			○	○						384
7 文2	唐宋八大家の文章	○	○	○	○						386